第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

(特非)ふくてっく

② 評価調査者研修修了番号

SK18235

SK18234

1201C028（大阪府）

0501B093（大阪府）

1802C021（大阪府）

③ 施設名等

名称：	三光塾
施設長氏名：	龍野 真継
定員：	40名
所在地(都道府県)：	兵庫県
所在地(市町村以下)：	西宮市小松西町2丁目6-30
T E L：	0798-41-4421
U R L：	www.sanko-ik.jp

【施設の概要】

開設年月日	1956/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 三光事業団
職員数 常勤職員：	32名
職員数 非常勤職員：	6名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の数：	8名
有資格職員の名称（イ）	精神保健福祉士
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	保育士
上記有資格職員の数：	17名
有資格職員の名称（エ）	臨床心理士
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（オ）	管理栄養士
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（カ）	調理師
上記有資格職員の数：	3名
施設設備の概要（ア）居室数：	全個室40室（6.62～9.74㎡）
施設設備の概要（イ）設備等：	食堂、リビング、浴室、トイレ、シャワー室
施設設備の概要（ウ）：	親子訓練室
施設設備の概要（エ）：	事務所、応接室、厨房、当直部屋

④ 理念・基本方針

【法人の理念】子どもと家族に寄り添う施設を目指して
 【法人の基本方針】①子どもと家族を支え寄り添える施設 ②地域における子育て支援の役割
 ③子どもの権利擁護への積極的な役割 ④子どもの虐待の防止とネットワークづくり ⑤子どもの自立・自助支援の充実
 【施設の理念】私たちは「子どもの権利」を保証し常に子どもたちの想いに耳を傾けながら共に歩み成長する姿勢を保ちます。
 また、地域の子どもたちと家族を支え寄り添うことができる施設を目指します。

【施設の基本方針】

- 1 子ども権利条約に謳われた子どもの権利を保障し子どもの最善の利益を求めます。
- 2 子どもたちの心と体の豊かな成長と発達を支えます。
- 3 子どもたちの自立・自律・自助を支えます。
- 4 子どもと家族を支え、常に寄り添う姿勢を保ちます。
- 5 地域家庭の子育てを支え多くの方々と協力してより良い在り方を考えます。

⑤施設の特徴的な取組

2010年の建て替えより、ユニット制（6～8人単位×6つ）へと移行しています。よりきめ細やかな生活のお世話を基盤に、子どもと信頼・愛着関係を育み、ケースワークのプランを立てて支援をしています。

特徴としては、家庭的・個別的な支援を基本とし、できるだけ同じ担当者が長く養育できる担当制をとっています。極力施設としてのルールは無くし、'あたたかくて丁寧な生活のお世話'を徹底し、ケースのアセスメントに従って、専門職として治療的養育を行っています。治療的養育の中身としては、子どもが抱える生い立ちへの葛藤に寄り添うこと・家族問題への支援・自立に向けた支援・権利擁護の視点等、職員も日々研修を重ねて知識技術を磨いています。実際に建てかえ後、9年目に入り子どもたち個々が落ち着き、安定し、成長してくれていると感じています。

また、施設としてアセスメント機能の向上に力を入れ、より活きた自立支援計画の策定を心がけています。FSW, 心理士も加わってカンファレンスを繰り返し、スタッフ全体で支援方針を共有し、支援の連携を密に行っています。インケアだけでなく、アドミッションケア・リービングケアにも力を入れており、子どもの意向に添って、かつ緩やかな流れの中で安心して家庭引き取りや自立ができるよう、制度を駆使しています。

そのノウハウを生かして地域の子育て支援、24時間相談電話やショートステイ事業、里親支援等も力を入れて行っています。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/4/25
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2019/9/5
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度

⑦総評

【特に評価のできる点】

1. 前回の第三者評価で指摘された改善課題について、具体的な方針や担当者を決めた確かな取組が実施され、多くの面で改善されています。養育支援の記録が詳細に残され、かつナビシステムや朝礼等の場で課題が共有されています。同時に、振り返りや適切なSVを施す機会ともなっており、チームとしての連携とサービスの質が担保されています。
2. 優秀な人材を広い範囲から確保する取組を実施するとともに、職員一人ひとりを大切に育成と、働きやすく、やりがいを感じることでできる職場づくりを進めています。
3. 多数の実習生を受け入れ、実習目的に沿った背局的で手厚い実習受け入れ体制が整っています。
4. 地域の自治会や子ども会に参加するとともに小学校のPTA役員を務めるほか施設資源を活用した地域の里親さんとの交流、要対協への参画を通じて地域のニーズを把握しています。24時間受付子育て電話相談（ハッピートーク）の実施や、子どもを暴力から護るプログラム（GAPにのみや）の創設を主導して、地域福祉の増進に寄与しています。
5. 子どもをルールで縛ることなく、担当制の職員が一人ひとりの子どもに寄り添って、共生関係の中で、子どもの主体性を重んじて親身に養育するなかで、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めて、基本的欲求にも応えています。
6. 標準的な実施方法として「養育マニュアル」が整えられており、その各項目に制定の意図、具体的な実施方法、そして職員個々の振り返りの欄も用意されており、見直しの仕組みを内在した生きた指標となっています。
7. 一人ひとりの子どもに対して丁寧なアセスメントが、組織的に実施され、これに基づいた自立支援計画が策定されています。
8. 子どもの権利擁護に関する取組や、子ども自身に他者の権利に正しい理解を示す取組が徹底しています。
9. 一人ひとりの子どもの生育の歴史が「〇〇ちゃん日記」に綴られ、子どもに楽しく振り返りながら生活のつながりを意識させ、不安の軽減を図りながら、この成長に応じた支援を施しています。
10. 集団的な性教育ではなく、一人ひとりの子どもの発達段階に応じて担当職員が丁寧に対応しています。
11. 子ども間の暴力、いじめ等に対して、その予防や適切な介入について、小規模ユニットの人的、物的環境が好ましい取組に活かされています。
12. 心理担当職員は、子どもの心理ケアに携わるほか、職員会議にも参加して個別の自立支援計画に関わり、また職員研修やSVを担い、さらに職員のメンタルケアにも対応しています。
13. 発達の状況に応じた学びや遊びの場を用意するとともに、ボランティアや塾の活用など、様々な取組で学習支援を行っています。
14. 担当職員が子どもに寄り添う中で、子どもの意向を把握した上で、情報提供や助言に努めて、子どもの最善の利益に叶う進路の自己決定を支援しています。
15. 家庭支援専門相談員を2名配置して、家族との信頼関係づくりに取り組み、子どもに対しては自立支援計画策定用年間アセスメントシートを策定してアセスメントを丁寧に行い、親子間訳の回復支援や、家庭復帰後の虐待の再発防止にも取り組んでいます。

【改善を求める点】

1. 事業計画や養育・支援の開始・過程における取組について、子どもたちや保護者への丁寧な説明の取組が行われていません。
2. 職員一人ひとりの、公正で透明性ある評価と、それに基づく処遇など、総合的な人事管理の仕組みが求められます。
3. 地域との関わり方についての基本的な考え方や、学校教育等への協力についての基本姿勢の明文化が求められます。
4. 「事業継続計画」（BCP）への取組が弱く、災害発生時において子どもの安全確保とともに養育・支援を継続する事も重要です。「事業（養育・支援）の継続」の観点から災害に備えた事前準備、事前対策をし、必要な対策・訓練を実施することが望まれます。

なお、当該施設は西宮市に本体施設があり、隣接する宝塚市に地域分散型小規模児童養護施設「御殿山ひかりの家」を併設しています。地域分散型小規模児童養護施設の課題を抽出することの意義から今回、法人の希望で「御殿山ひかりの家」の評価も実施しており、評価結果を評価機関であるふくてっくのホームページ（<http://fukutech.sakura.ne.jp/>）および法人ホームページ（<http://sanko-jk.jp/>）に掲載しているのをご確認ください。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の受信において、前回受診した際の指摘事項を職員たちが改善し、さらに良き支援を目指して取り組んできたことを評価していただきありがとうございます。

課題としては「人事考課制度」や「事業計画を子どもや保護者に説明」はできておらず、これは施設長、管理者側の責任が大きく今後、他法人や専門家の意見も参考にして改善していきたいと考えています。また、今回はじめて小規模児童養護施設を分けて評価してもらい本体施設から距離があることでの職員への負担感や連携の難しさについても見直していきたいです。

「子どもと家族に寄り添う」という法人理念を児童養護施設に落とした時に、私たちのすべきことは？

専門職集団として、子どもたちの個々の背景をしっかりとアセスメントし、具体的な自立支援計画に基づき、日々の生活の中で養育方針を全職員で共有し実践していく。子どもたちは担当職員を信頼し日々の生活の中で大切にされる経験を積み重ねて自己肯定感を育て将来を考えていく。今後もそんな支援を職員皆で考え取り組んでいきたいと思ひます。

⑨第三者評価結果（別紙）

評価結果表（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	☐ 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	☐ 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	☐ 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
	☐ 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	☐ 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	☐ 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【コメント】		
その生き立ちから、人生をマイナスから始めなければならない子どもには、まず信頼できる大人の存在を知ることが大切であるという信念で、職員が寄り添うことを徹底しています。そして入所児童に限定せず、広く地域の子育て支援に貢献してゆくという、法人の理念・基本方針はホームページや広報媒体に明記され、職員にも周知が行き届いています。新しい職員にもいち早く、行動規範として浸透させるよう、昨年度から改訂を進めている「子育て支援の目当て」の完成が待たれるところです。子どもや家族についても、入所時に配布する「しおり」にとどまらず、より分かりやすく説明する資料を作成するとともに、周知の状況を確認する取組が望まれます。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	☐ 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	☐ 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	☐ 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	☐ 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
理事長、事務局長は全国社会福祉法人経営協議会（経営協）の定例会に参加して、社会福祉事業の動向を把握し、また、理事長は西宮市の教育委員や要保護児童対策地域協議会（要対協）の副会長を務める中で市内における教育と社会的養護の情報を把握しています。そのほか、地域の子育て支援として行っているショートステイ事業や「ハッピートーク（子育て相談電話）」については年に1回利用の動向を分析し、理事会で共有しています。このように、多面的な取組から、施設経営を取り巻く環境と経営状況は的確に把握分析され、これをもとに多くの具体的な事業を実施していることは高く評価できます。自己評価では、定期的な養育・支援のコスト分析までには至っていないとしています。社会福祉法人は目先の収支判断をもって事業の拡大縮小を議論するものではありません。三光事業団は社会福祉法人として健全な収支の実績が認められます。		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	☐ 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	☐ 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	☐ 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	☐ 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

法人全体の課題としては、事業所間のコミュニケーション不足や一部事業所（三光塾ではなく母子支援施設）における職員のストレス状況に関する改善課題等が指摘され、役員間で共有されています。各事業所管理者も監事監査等に出席して課題を共有しています。そうした法人全体課題についての職員への周知が行き届いていない面は否めませんが、三光塾に限れば、経営課題は具体的に明らかにされ、職員にもよく周知されています。なによりも「地域の子育て支援」という明確な経営目標があり、そこに向かって克服すべき課題を明らかにして、具体的な取組を実施していることは高く評価されます。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	☐ 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。	○
	☐ 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	☐ 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	☐ 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

社会福祉法人三光事業団として、理事長作成による詳細な中長期計画があります。そこには法人の沿革と特徴、運営の基本理念、目標とする中長期課題が具体的かつ詳細に記述されています。今後は、これにもとづいて、児童養護施設三光塾としてのビジョンを明確にした計画の策定が望まれます。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	☐ 単年度の計画（事業計画と収支予算）に、中・長期計画（中・長期の事業計画と中・長期の収支計画）の内容が反映されている。	○
	☐ 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	☐ 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	☐ 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

単年度の計画は、法人の中長期計画を反映して策定されています。運営処遇方針から事業、行事計画、職員配置計画、各種会議予定、研修計画、施設環境整備計画に至る詳細な計画は、具体性、実行可能性も問題ありません。福祉事業においては、その成果は必ずしも数値化できるものではありませんが、期中・期末において、実施状況を確認、評価することを念頭において、評価の基準を設けておくことが求められます。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	☐ 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	☐ 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	☐ 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	☐ 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	☐ 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

子どもたちの安定した日常生活支援を行うべく、職員体制は5ユニットそれぞれに固定されたチーム編成となっており、これを横断する形で各種の委員会が構成されています。各支援ユニットおよび委員会活動は、その年度総括がホームでの検討会議で共有され、それに基づいて施設長が次年度計画を策定していますので、そこに職員の意見がよく反映され、職員も理解しています。今後は、計画実施期間中の計画実施状況把握や見直しの時期、手順などについても、計画に織り込むことを期待します。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	☐ 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	☐ 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	☐ 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	☐ 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

保護者等へ配布される「三光塾だより」には子どもたちの生活の様子や行事の取組の紹介はされていますが、事業計画の説明が不十分です。事業計画の肝は言うまでもなく子どもの「自立支援」にあります。子どもや保護者等の状況は様々であり、すべての子どもや保護者にとって「自立」が当面第一の目標とは限らないかもしれませんが、であればなおさら、子どもの最善の利益としての自立支援計画と、それを旨とする事業計画の周知が求められます。難しい文書ではなく、率直に目指すところを分かりやすく説く工夫を期待します。子どもたちに対しては日々の支援の中で分かりやすく伝えたとともに、頻繁に交流ができない保護者に対しては三光塾だよりやホームページの内容を見直すことを期待します。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	☐ 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	☐ 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	☐ 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	☐ 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

毎年実施する自己評価、および3年ごとの第三者評価受審によって、改善課題を明らかにし、それに対して職員会議を通じて役割を決めるなど、組織的な改善を実施しています。日常的な養育・支援についても、職員はそれぞれの支援をふりかえて日誌に記述し、これをPCナビシステムで共有するとともに、毎日の朝礼で読み合わせをして相互に評価と啓発を繰り返しています。このように、3年・1年・日常のサイクルでPDCAが機能していて、自立支援計画の質を向上する取組が機能しています。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	☐ 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	☐ 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	☐ 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	☐ 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	☐ 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

前回の第三者評価受審結果を受けて、これを職員会議で共有しながら、役割と責任体制を明らかにして具体的な改善方法を検討して実践し、3年の間に多くの成果を上げたことが確認できます。短期には改善困難な課題も多いですが、今後とも組織をあげて取り組むことを期待します。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
☐ 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
☐ 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
☐ 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
☐ 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長は自らの役割りについては管理規定・職務の項で「施設全般の業務を統括する」と明示し、さらにその具体内容については事業計画書・業務分掌で明らかにして、周知を図っています。また、施設長の不在時や非常時における対応についても主任、副主任及び上級職員によるサポート体制が整えられています。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
☐ 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
☐ 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	
☐ 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
☐ 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

施設長は法令順守についての理解に努め、取引関係先や各行政関係先等との適正な関係を保持しています。しかしながら法令遵守に関する研修への積極的な参加や職員への周知については、特に市社会福祉法人経営に関する研修の取組みが不十分な状況です。さらに、施設運営に直接かかわる法令等はもちろん、福祉こそがまちづくりのキーワードであるという広い視点から、施設長は三光塾において遵守すべき法令等を示し、施設内研修の実施やホームごとに実施する勉強会への参加等、法令遵守の徹底について職場全体で理解するための取組みが求められます。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	☐ 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	☐
	☐ 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	☐
	☐ 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	☐
	☐ 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	☐
	☐ 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	☐
	☐ 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	☐

【コメント】

養育・支援の質の向上の基本原則については管理規定・第4章「児童の処遇」で示されています。施設長は子どもたちへの養育・支援の質の向上のため、朝礼や職員会議での報告受けや現場に入って、子どもと職員との関わり具合を見たり、日々の行動を通して、子どもが安心して生活が出来ているかどうかの視点で確認に当たっています。また、養育・支援の実践については、職員の意見を取り入れた養育マニュアル（職員9名のチームで作成）が整備されていて、毎日の生活支援に活かされています。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	☐ 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	☐
	☐ 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	☐
	☐ 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	☐
	☐ 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	☐

【コメント】

三光塾は、社会福祉法人三光事業団が運営する多様な福祉事業の1つであり、その経営改善や業務の実効性を高めるための分析や議論は、専ら法人理事会が統括しています。施設長は理事会メンバーとして、積極的に関わるとともに、三光塾においては、その経緯を職員に伝えて共通理解を図りつつ、三光塾独自で行える業務改善は積極的に推進しています。今後は、ますます厳しくなる経営環境の下で、さらなる改善の取り組みを期待します。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
☐ 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
☐ 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
☐ 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
☐ 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
(5種別共通) ☐ 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

三光塾では、小規模ユニット化する施設においては、職員一人ひとりの存在がとても大きく、優秀な人材確保が急務であるという観点から、職員を(縁故を頼ったいわゆる一本釣りではなく)広範囲から募集する仕組みを構築しています。すなわち、毎年夏前には入職説明会を開催して、施設の養育方針や職員育成システム、福利厚生、キャリアアップ制度などを丁寧に説明しています。さらに職員の定着については、なによりも仕事にやりがいを持てることが大切であり、仕事の中で力をつけていけることを実感できる研修システムを構築しています。そうした結果、多数の応募に恵まれ、より良質な職員を選択的に確保することができています。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	c
☐ 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
☐ 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
☐ 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
☐ 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
☐ 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

この項では三光塾で働く職員一人ひとりが現在の仕事にやりがいを感じ、自らの将来を描くことができる仕組みづくりが問われています。しかしながら、今の所は、職員の専門性や職務遂行能力はじめ職務の成果や貢献度に応じた評価等、明確に定められた人事基準は整えられていません。三光塾では期待する職員像に添った個別研修計画において、職員の階層分けやそれに伴う職能のレベルが示されています。そしてこの研修計画書では自己の振り返りから新しい目標設定、さらに評価までのフローになっており、一人ひとりの目標管理シートにもなる内容になっています。これを土台にして採用、配置、異動、昇進、昇格等について職員誰もが理解しやすい基準(数字で示すことができるものは明確に示すこと)を定めて運用されることが求められます。現状は、各職員のがんばりを公正に評価してこれに応えるという、風通しのよい人事管理は機能していません。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	☐ 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	☐ 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	☐ 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	☐ 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	☐ 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	☐ ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	☐ 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	☐ 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

働きやすい職場づくりに関しては施設長、主任を補佐して副主任、ホーム長が日々職員とのコミュニケーションを大切にして就業状況の確認や意向の把握に努めています。一方、労務管理に関する責任体制は事務分掌で主は施設長、副は事務局長と示されていますが、定期的に職員との個別面談の実施や施設内に職員の相談窓口を設けるなどの取組は今後の課題となっています。

いわゆる「働き方改革」は社会福祉施設も聖域ではなく、喫緊の課題です。三光塾では育休や産休制度もあり、職員からも評価されています。ただ、福祉の仕事は、それ自身心身への大きな負担であるとともに、職員一人ひとりの生い立ちにも共鳴して増幅される傾向があります。そのようなメンタルな領域にも配慮した取り組みが求められます。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	☐ 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	☐ 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	☐ 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	☐ 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員一人ひとりの育成については三光塾の目指す職員像に添って、19項の職員一人ひとりの教育・研修「職員の資質向上のためのプラン・個別支援計画」の仕組みで取組んでいます。ここでは職員個々の目標設定を立てて、中間・期末面接を行い進捗状況や目標達成度の確認を重視しています。この面談は主に主任がスーパーバイザーとして担っていますが、主任の業務は多忙を極め、計画通りには実施されていません。主任の業務過多を緩和し、職員一人ひとりの目標管理のための中間・期末面接が計画通り徹底出来るよう、副主任や各ホーム長に役割を分散するなど、取組み体制の再検討を期待します。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	☐ 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	☐
	☐ 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	☐
	☐ 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	☐
	☐ 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	☐
	☐ 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	☐

【コメント】

職員の教育・研修に関する基本方針や計画は三光塾の目指す職員像をもとに、毎年度初めに基本的な社会福祉の知識についてをはじめその時のニーズに合った内容をテーマにして年11回の研修計画を策定し実施されています。次項の「職員の資質向上のためのプラン・個別研修計画」と併せ、充実した職員研修の体制を確認しました。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	☐ 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	☐
	☐ 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	☐
	☐ 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	☐
	☐ 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	☐
	☐ 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	☐
	(5種別共通) ☐ スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	☐

【コメント】

職員一人ひとりの教育・研修については「職員の資質向上のためのプラン・個別研修計画」で整えられ、実施されています。その内容は、職員の職責を「入職前職員（採用内定者）、新任職員から中・上級職員、指導的職員、施設長」まで6階層に区分した計画となっています。毎年度初めに個々のレベルに準じ、スーパーバイザーが面談し、研修を計画、実行しています。また、児童養護施設に求められる専門性の習得についても当計画に取り入れられていて、職員一人ひとりが援助技術を向上させて施設全体の養育・支援の質の向上を図る取組となっています。また同時に、職員個々の教育・研修をベースにした目標管理とやりがい有助長する仕組みになっています。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	☐ 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	☐
	☐ 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	☐
	☐ 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	☐
	☐ 指導者に対する研修を実施している。	☐
	☐ 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	☐

【コメント】

実習生を受け入れる姿勢や福祉サービスに係る専門職の研修・育成については実習生受入れマニュアル及び実習のしおりで明示されています。三光塾ではこれまでの実績から毎年、多くの福祉系、保育系各大学等から実習希望が寄せられています。その中、施設運営のバランスを考慮の上、最大年間20名の実習生を受け入れています。研修・育成のプランは整備されていて施設側の指導体制は福祉系実習生にはFSW中心のチーム、保育系実習生には、幼児が多く入所するのぞみの家ホーム長である副主任中心によるチームで編成され、対応しています。このように、実習目的に沿った、積極的で手厚い実習生教育・研修の受入れ体制が整っています。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	☐ ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	☐ 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	☐ 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	☐ 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	☐ 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】		
運営の透明性を確保するための情報は、三光塾の果たす役割、意義をはじめ事業計画・報告、決算情報等、三光塾のしおり及びHPで詳細が公表されています。また、意見、苦情等については法人全体で取組みの苦情解決委員会が置かれ、苦情等の受入れ、対応、解決の内容は三光塾だよりで示されています。しかしながら苦情や相談内容の公表には至っていません。「公開」は無制限の「公表」を意味するものではありませんが、より積極的な情報の公開が求められます。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	☐ 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	☐ 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
	☐ 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	
	☐ 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	
【コメント】		
経理事務一般に関すること、施設経理事務に関することなどについては事業計画書・事務分掌で示され、職員への周知が図られています。会計処理についても経営コンサルタント会社より助言を受け適正化に努めています。今後も、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営を継続して行くために、定期的に外部の専門家による監査を受けることや内部監査の体制づくりなど、法人としての取組みの再検討が望まれます。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	☐ 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	☐ 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	☐ 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	☐ 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) ☐ 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		
子どもと地域との交流を広げるための取組みとしては、小学生を対象に地域（小松西町）の子ども会に所属し、子ども会の行事進行に協力しています。また、PTA会合に参加し、地域の方々との日常的なコミュニケーションを心掛けています。これからも子どもたちが安心して地域での交流が出来るよう、子どもと地域との関わりについて、三光塾の基本的な考えは文書化には至っていませんが、「子どもと地域の方々との交流は真に大切、地域の皆さんの協力がなければ児童養護施設は成り立たない。」と明言しています。この想いを明文化されることは、すでに展開している多様な取組に筋を通して、子どもたちが地域の方々と交流をもち、良好な関係を築くための手引きとなります。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	☐ ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	☐ 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	☐ ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	☐ ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアの受入れ姿勢はボランティア受入れマニュアルで示されています。こちらでは地域の方々の協力、応援を主として、ホーム毎にそれぞれの子どもに適した遊び相手であったり、学習支援、野球、さらには地域の里親さんによる子どもと一緒に過ごす自由な生活応援など、さまざまなボランティアを受け入れています。一方、施設の役割りである地域の学校教育への協力については、児童養護施設の特性上、学童への福祉教育の場を提供することは困難ながら、施設長は小学校PTAの会長を担って、会合に参加して情報収集とともに啓発活動をしながら今後の取り組み方について検討し、施設としてのマニュアル化を進めています。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	☐ 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	☐ 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	☐ 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	☐ 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	☐ 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

地域の関係機関、団体等については社会資源リストを作成されていて、各先との連絡や連携の内容についてなど、職員がいつでも確認出来るよう整えられています。その中、近隣の児童福祉施設・保育所・乳児院・母子生活支援施設との連携では児童虐待の防止とネットワークづくりに取組まれています。また、要保護児童対策地域協議会や子育てネットでは子どもの養育支援に関わる諸課題の協議に参画しています。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	☐ 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域の福祉ニーズを把握する取組みとしては、まず、身近に小松西町自治会、子ども会への参加及び小学校のPTA役員会等へ職員が参加するなど、地域の方々との交流の機会を多く活用しています。また、三光塾のぞみの家内ひかりホールを活用しての「ほっとサロン in 三光塾」では地域の里親さんと施設職員との交流会を実施しています。さらに、要保護児童対策協議会への参画など、さまざまな機会から地域の福祉ニーズの把握に取り組んでいます。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	☐ 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	☐
	☐ 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	☐
	☐ 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	☐
	☐ 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	☐
	☐ 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

施設が有する子どもの養育支援に関わるノウハウを活かして、三光塾では「子どもと家族に寄り添うために」をキーワードに、24時間受け付けの子育て電話相談「ハッピートーク」が設けられていて、さまざまな相談等に応じています。また、子どもを暴力から守るプログラム「CAPにしのみや」を20年前に創設し、学校のPTAや地域団体等からの依頼に応じて、ワークショップや研修会を実施しています。地域防災については、まずは施設内の対策を整えうえて、地域の防災・防犯会議に参加しています。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
☐ 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	☐
☐ 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	☐
☐ 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	☐
☐ 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	☐
☐ 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	☐

【コメント】

子どもの尊重に関して「ルールや決まりで管理はしない」という三光塾のブレない信念のもと「子どもに寄り添う姿勢を大切に」を第一に考え、職員参画のもと作成された「養育マニュアル」があり、職員に理解され共有出来ています。マニュアルの改訂、見直しについては現在進行中であり、常に状況把握に努めており評価できます。また養育や権利擁護に関する研修会なども実施し、子どもたちへの基本的人権も尊重されており、あらゆる点で養育支援の共通理解にしっかり取り組んでいます。

② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
☐ 子どもへのプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	☐
☐ 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	☐
☐ 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	☐
☐ 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	☐

【コメント】

大舎制からユニット制になり、三光塾の子ども達には個室が与えられ、自らプライバシーを確保する事が可能な環境にあります。保護者へのプライバシー保護に関する取組は入所時に説明しており、可能な対応は実施されています。子ども達には「プライバシー」という難しい内容に関して、職員が守ること、子ども達が守ることを「三光塾の大切に行っていること」の中でQ&A方式という工夫で判りやすく伝えようとする意欲は評価できます。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	☐ 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	☐
	☐ 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	☐
	☐ 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	☐
	☐ 見学等の希望に対応している。	☐
	☐ 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	☐

【コメント】

情報提供としてホームページ、しおりが準備されています。入所予定の子どもや保護者にはパンフレットが用意され、入所してからの生活や周辺環境について丁寧な説明が実施されています。職員に対しては「入退所マニュアル」を通して共通理解が図られています。措置入所や他施設から三光塾に来る子ども達には、三光塾に行く理由の説明については児童相談所のケースワーカーが行っていますが、その後何故三光塾に来たのかをしっかりと説明し、三光塾の養育・支援の方針が説明出来ています。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	☐ 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	☐
	☐ 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	☐
	☐ 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	☐
	☐ 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	☐

【コメント】

子ども用、保護者用、それぞれに分かりやすく養育について説明している「入退所マニュアル」が準備されており、入所時にはマニュアルを使って担当職員が対応して説明し、内容についての同意が得られています。入所後の子どもについては、要所で保護者への説明を行い記録も出来ています。いろいろな子どもがいる中、意思決定が困難やまだ判断のつかない子どもに対しては保護者への配慮も含め個々に対応しており、子どもの成長に対応した取組が出来ています。ただ、現在は主任が全てのヒアリングを行う事で説明の均一化が図られていますが、対応配慮のルール化をする事で、主任の負担軽減も含め、他の職員が対応しても均一の説明が実施できる取組が望まれます。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	☐ 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	☐
	☐ 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	☐
	☐ 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	☐
	☐ 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	☐

【コメント】

養育・支援の継続として関係機関でカンファレンスを実施し、地域につなぐ事に連携は出来ています。退所後の相談方法等も「入退所マニュアル」に沿って説明もされています。退所して1人で生活する子ども達もいますが、三光塾で温かく職員（大人）に見守られユニットで暮らしてきた子ども達にとっては不安もあり、困る事も多く発生します。それでも担当職員がしっかりと相談を受け対応出来ています。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	☐ 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	☐ 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	☐ 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	☐ 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	☐ 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

権利擁護を考える「にこにこ委員会」がしっかり機能し寄り添う姿勢を大切にしています。子ども達から意見を聴く「聞かせてアンケート」を実施し、その内容を協議する仕組みが機能しています。子ども会の設置や委員会への子ども達の参画はありませんが、日常の会話、小さな変化を敏感に受止め、ホームでの検討会議を通じて共有されしっかり伝わっている事が窺えます。他児の権利侵害行為が発生した場合にもホームでの検討会議を臨機に開催しています。子どもアンケート結果からも大きな不満を訴える子どもはなく、満足度が高い事は評価できます。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	☐ 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	☐ 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	☐ 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	☐ 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	☐ 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	☐ 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決については社会福祉法人三光事業団の「運営施設における意見申し立てシステムイメージ」に苦情に対する流れや各相談機関が明示され掲示もされています。保護者に対しては「三光塾だより」で周知しており、子ども達にも年齢に応じた対応となりますが、苦情がある時の方法が説明出来ています。苦情内容や対応については、しっかり記録されており、その後の他機関との連携対応の内容まで保管されています。児童養護という事情から、保護者、子どもへのフィードバック・公開については最もデリケートな部分であり注意はされていますが、取扱いについて都度の対応となっていますので公開に対する規定などの策定が望まれます。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	☐ 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	☐ 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	☐ 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

三光塾では「三光塾の大切にしていること」で子ども達と職員が「一緒に考えよう」を大切に、取組む事を基本姿勢として出来ています。年3回「聞かせてアンケート」を実施し質問や回答もわかりやすく工夫されています。そして相談相手についてもユニットの担当者以外の職員が第三者的に話を聴き、意見等が聴けた場合は担当職員に内容を伝え、協議し対応するなど手厚く意見に向き合っています。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	☐ 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	☐ 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	☐ 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	☐ 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	☐ 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	☐ 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

子どもからの相談には、担当職員が日頃から対応していますが、「聞かせてアンケート」ではユニット職員以外の職員が意見を聴く取組を続けています。他にも相談が必要な子どもには各個人の部屋で職員と一対一で対応しています。ただ、子どもアンケートでは「相談したいが他の子が邪魔してくる」などの意見もあり、ユニットを離れた相談場所の検討を期待します。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	☐ リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	☐ 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	☐ 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	☐ 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	☐ 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	☐ 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

「防災・修繕委員会」を設けて、安全点検シートを使い、ユニット内や外回りを他のホーム職員が月に1度点検しており、事前に危険を回避する取組が行なわれています。また月1回の防災訓練はワンパターンではなく多様なプログラムが実施されています。ヒヤリハット事例が発生した場合は速やかに報告し、解決検討を協議し記録されています。安全確保や事故防止に関する施設内研修も開催されており、安心・安全への意識が高い事が窺えます。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	☐ 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	☐ 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	☐ 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	☐ 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
☐ 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○	

【コメント】

「保健委員会」を設置し、感染症マニュアルの整備や、年に一度の研修を行い、感染症に対する職員の意識が高い事が窺えます。ただ、日常の中で食事の手洗い及び食後の口腔ケアに関して徹底出来ない所も見受けられますので三光塾全体の状況確認が必要です。季節の流行としてインフルエンザ、ノロウイルスなどについてもしっかり対処法が示されており有効に利用されています。実際に処置必要な場面での対応で「マニュアルが大変役に立った」との職員の話もあり、有効に活用されています。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	☐ 災害時の対応体制が決められている。	○
	☐ 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	☐ 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	☐ 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

三光塾では「防災マニュアル」が整備されており、受ける災害の可能性について、立地条件から近くを流れる河川氾濫のリスク因子について理解し、その場合に行なう連絡や安否確認、避難経路などについて職員に周知されています。昨年は台風や地震など災害があり、停電などもありましたが三光塾全体で補えており、その後の見直し、振り返りも出ています。毎月の避難訓練も実施し、年に一度の施設内研修も行なわれています。ただ、「事業継続計画」(BCP)への取組みが弱く、災害発生時において子どもの安全確保とともに養育・支援を継続する事も重要です。「事業(養育・支援)の継続」の観点から災害に備えた事前準備、事前対策をし、必要な対策・訓練を実施することが望まれます。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	☐ 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	☐ 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	☐ 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	☐ 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

職員複数で協議し作成された「養育マニュアル」があり「画一化されたルールで子どもを縛ることは三光塾の養育方針ではない」との三光塾の養育に対する「考え方、想い」が伝わり、全職員の指針となっています。子ども一人ひとりの生活軸に沿って構成されており、「気をつけること」のみが書かれているわけではなく、その意図まで表現し、子ども達から信頼される大人への感情を育むことまで配慮されています。それは新人職員への基本的な養育の説明にも使用され、わかりやすいものであり高く評価できます。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	☐ 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	☐ 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行なわれている。	○
	☐ 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	☐ 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

養育・支援について示した「養育マニュアル」の内容が実施出来ているかを検証することは重要であり大切なことです。「養育マニュアル」には自由記載欄として「ホームで統一したいこと、個人メモ」があり、支援現場に即した活きた指針となっているとともに、実施状況の確認や、見直しに向けた手がかりを得ることができるようになっています。三光塾では月に1回、ホームでの検討会議、ホーム長会議と組織的に実施され、その中で養育の実施内容を検証し、見直しも検討されています。PDCAサイクルが機能しており、標準的な実施方法の作成・運用のモデルとして高く評価できます。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	☐ 自立支援計画策定の責任者を設置している。	☐
	☐ アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	☐
	☐ 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	☐
	☐ 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	☐
	☐ 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	☐
	☐ 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	☐

【コメント】

年間アセスメントシート作成をして見直し評価の流れはしっかり出来ています。三光塾では子どもに対する担当者は入所してから変えないという養育を基本としており、担当職員が中心になり「年間アセスメントシート」を協議のうえ作成し、主任の確認後、自立支援計画が策定されています。協議についてはファミリーソーシャルワーカー、心理士等のあらゆる意見を聴き策定されています。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	☐ 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	☐
	☐ 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	☐
	☐ 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	☐
	☐ 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	☐
☐ 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	☐	

【コメント】

自立支援計画策定後は決まった時期に(年1度)見直しの為のホームでの検討会議が実施されています。ユニット毎に協議し見直しはしているが、協議後の自立支援計画の周知は各自ケースファイルを確認するだけで職員間での認識にバラツキがでる事が想定されます。ユニット全ての職員が共有する仕組みの検討が望まれます。今後は自立支援計画の見直し時期を改めて定めることで評価、見直しがしっかり実施され、健全な自立支援計画を目指す事を期待します。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	☐ 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	☐ 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	☐ 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	☐ 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	☐ 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	☐ パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

三光塾には情報システムネットワークというシステムがあり、子どもの生活状況、養育・支援の実施記録など全てが保存され、全職員が閲覧出来る仕組みとなっています。その他、会議などの記録も保存されており、記録の保管と職員共有については高く評価できます。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	☐ 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	☐ 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	☐ 記録管理の責任者が設置されている。	○
	☐ 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	☐ 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	☐ 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報保護規程による記録の管理体制は、三光事業団の規定により定められており記録は保管されています。ただ、情報提供に関する規程は無く、その対応機会が少ない事もあり、施設長管理のもと情報提供は都度の対応となっています。今後はその対応内容にバラツキが出ない様、対応の記録作成と内容を共有する仕組み作りを望みます。現在一番気をつけていることとして、SNS等からの情報流出（写真等）があり職員への研修などで注意を促しており、子ども達には注意をしています。

内容評価基準（25項目）□

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
☐ 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
☐ 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
☐ 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
☐ 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
☐ 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもたちには兵庫県作成の権利ノートと併せ、三光塾独自の権利ノートである「三光塾の大切にしていること」を配布しています。また年に3回「聞かせてアンケート」と称する取組を子どもと担当職員が1対1の時間を作って行い、権利侵害が行われていないかを確認して、これを記録にとどめホームでの検討会議で共有しています。職員に向けても少なくとも年1回、権利擁護についての施設内研修を行うとともに、ロールプレイによる実践の中での学びの機会を設けています。三光塾は、カトリック教会聖公会を母体とする社会福祉法人三光事業団が運営する施設ですが、お祈りなど宗教的行為は強制していません。

(2) 権利について理解を促す取組	
① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
☐ 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
☐ 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
☐ 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
☐ 子ども一人ひとりがかけがえない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
☐ 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

入所児童の多くは、大切にされた経験に満たされておらず、権利意識に目覚めていません。三光塾が独自に作成した権利ノート「三光塾の大切にしていること」には、まず子ども自身が権利の主体であることを説き、その上で他者にも同様に尊重すべき権利があることを分らせるようにしています。子どもたちに実施している「聞かせてアンケート」では、分かりやすい表現手法を用いて、子どもが実感できるような取組となっています。職員間でも権利擁護委員会（にこにこ委員会）の活動の中で、子どもの権利に関する学習機会が設けられています。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	☐ 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	☐
	☐ 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	☐
	☐ 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	☐
	☐ 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	☐
	☐ 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	☐
	☐ 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	☐

【コメント】

三光塾では、一人ひとりの子どもにそれぞれの担当職員をつけ、担当職員は家族や心理士、児童相談所などの関係機関とも連携して、子どもが知らない事実や成育歴、入所理由を正しく把握しています。子ども目線の聞き取りも行い、これらの情報を年表形式に整理する取組も始まっています。一人ひとりの子どもについて「〇〇ちゃんの生き立ち」というアルバムが見事に整えられています。担当職員は、それらをもとに、日々の生活の中で子どもの発達状況を見極めつつ、子どもと共にその生き立ちに触れながら、慎重に伝えるとともに、都度、その変容に注意しながら適切なフォローを行っていることが、詳細な日報の記述から窺えます。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	☐ 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	☐
	☐ 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	☐
	☐ 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	☐
	☐ 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	☐
	☐ 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	☐

【コメント】

子どもに対する職員の不適切な対応は、あってはならないこととして就業規則に定めるとともに、その防止についてマニュアルを作成して職員に周知しています。またそのような事案の発生および発生の恐れある場合の、報告義務等の行動規範や、報告者の不利益回避の定めも明確です。しかしながら、そうした取組を子ども等に説明することは、専ら担当職員に委ねられており、組織としてしかるべく資料を配布若しくは掲示するなどの取組が求められます。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	☐ 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	☐
	☐ 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	☐
	☐ 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	☐
	☐ 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	☐

【コメント】

三光塾では男女各2ユニットと、別棟に男女混合の1ユニットに小規模分散し、それぞれ固定した職員をチーム配置するとともに、一人ひとりの子どもに担当職員を置いて、子どもと職員の距離を近密にした生活の営みの中で、1対1の話し合う機会を設けています。日常生活や余暇の過ごし方についての子どもの意見や要望も、そのような日々の生活の中で把握されています。三光塾ではルールで子どもを縛るということを極力さけて、一人ひとりの「やりたい」を最大限に認めることを基本方針としています。年齢に応じて設定されたお小遣いや、アルバイトで得たお金の使途や管理については、子どもの発達状況に応じて、主体性を育むよう支援しています。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	☐ 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	☐
	☐ 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	☐
	☐ 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	☐
	☐ 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	☐

【コメント】

入所予定の子どもには、緊急入所のような例外を除いて、入所前から面会や施設見学を繰り返し、入所の時には担当職員が予め子どもの希望をくみ取って日用品や部屋の設えを整え、あるいは入所初日の食事に、その子どもの好きな食べ物を用意するなど、あらゆる工夫を凝らして、子どもの安心感を醸成しています。また担当職員を配置して継続的なお世話を集中して実施しています。退所に際しては、三光塾での生活で培った人間関係を可能な限り継続できるよう取組み、食事を摂りに来るよう誘う等、退所後のアフタフォローも手厚くして、実家機能を発揮しています。以上の取組みは「入退所マニュアル」に文書化され、職員で共有・励行されています。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	☐ 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	☐
	☐ 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	☐
	☐ 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	☐
	☐ 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	☐
	☐ 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	☐
	☐ 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	☐

【コメント】

リービングケアとしては、子ども一人ひとりの自立支援計画を立てて、措置延長などの対応を駆使しつつ、地域での一人暮らしへの移行を支援しています。退所後のアフタフォローも前項の評価コメントに記したように手厚く対応するほか、退所者が集う同窓会の実施や、OB職員が退所者を支援する「クローバーの会」を組織して、アフタフォローを充実しています。このように、職員の支援力に依存した取組は申し分ない状況にありますが、退所者の記録の整備が徹底していません。組織として状況を把握して、退所者の名簿や生活状況を追跡管理する仕組みの構築を期待します。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p>☐職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p>☐子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p>☐子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p>☐子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p>☐子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>職員は入所前から児童相談所とも連携してカンファレンスを繰り返し、一人ひとりの成育歴や家庭環境などを把握しその情報を職員間で共有しています。子どもの問題行動に心理的な課題が見受けられる場合は、臨床心理士の心理療法が受診できる体制があります。2か月に1回、「ここにこ委員会」の「聞かせてアンケート」が担当職員により行われ、子どもの実情や想いをくみ取って、職員間で共有しながら、その疑問や不安にこたえています。今回の第三者評価で実施した子どものアンケート調査結果でも「おとなたちに大切にされている」との結果もあり、職員に大切にされていることがうかがえます。</p>	
<p>② A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p>☐子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p>☐基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p>☐生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p>☐子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p>☐基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。</p> <p>☐夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>三光塾では日々の日課は「おはよう」にはじまり「お休み」の就寝まで、子ども主体の一日の流れに沿って、三光塾の養育の意図・想いが「養育マニュアル」に明記されています。子どもをルールで縛るのではなく子どもたちとの話し合いを通じて物事を決めるように配慮しています。子ども一人ひとりの担当を固定化した職員配置によって、大人との信頼関係を構築し、子どもの基本的欲求（護られ、やりたいことができ、個人として尊重される）の実現が期待できる体制を築いています。夜間も宿直の職員が子どもを近くで見守り、安心感に配慮しています。</p>	
<p>③ A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p> <p>☐子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p>☐職員は必要以上の指示や制止をしていない。</p> <p>☐子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p>☐つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p> <p>☐朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>三光塾では、子どもたちの自立・自律・自助を支えるを基本方針とし、子ども一人ひとりの成長過程における様々な経験（成功体験、失敗体験）を肯定的に受け入れて、常に職員が寄り添いかかわっています。養育支援日記にはそのような「成功体験・失敗体験」が詳細に記述されており、そうした記録はパソコンネットワークに蓄積されるとともに、朝礼等で読みあわされて職員間で共有され、三光塾の養育支援の趣旨が組織全体に徹底しています。</p>	

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	☐ 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	☐
	☐ 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	☐
	☐ 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	☐
	☐ 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	☐
	☐ 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	☐
	☐ 幼稚園等に通わせている。	☐
	☐ 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	☐

【コメント】

子ども一人ひとりの、発達段階に応じたニーズを把握し、自立支援計画に反映して支援しています。各ユニットごとに図書や遊具を備えるとともに、放課後等デーサービスの通所や学習ボランティアの導入、塾へ通わせるなどの取組があります。公園や児童館などの地域資源も活用され、学びや遊びの環境は十分に整えられています。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	☐ 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	☐
	☐ 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	☐
	☐ 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	☐
	☐ 発達の状況に応じ、身体(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	☐
	☐ 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	☐

【コメント】

三光塾ではルールや規範を上から押し付けるのではなく、日常の生活支援の中で、社会生活に必要な知識やスキルを身につけていくことを心がけています。生活ルールについても子どもとの話し合いを通じて共に考えさせて設定しています。種々の生活習慣の習得についても、させて学ばせるよりも職員が行うお世話を見て子どもが気づき、自発的な行動を促すようにしています。高校生から携帯電話の所持を認め、中学からネット環境に触れることが出来るようにしています。SNSやネット等利用のリスクについては必要な知識提供も行われていますが、子どもが加害者にも被害者にもなりやすいことについて、子どもを護るための十分な対策が求められます。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	☐ 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	☐
	☐ 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	☐
	☐ 食事場所は明るく楽しい雰囲気ですぐに清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	☐
	☐ 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	☐
	☐ 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	☐

【コメント】

三光塾では施設内の厨房で調理されたものが各ユニットに配食され、職員と子どもが一緒になって楽しく団欒しながら食事が行われています。各ユニットにはキッチン設備があり、部活等で生活時間が異なる子どもにも適温で食事が提供されています。子どもたちの嗜好については、残食の記録や年数回の食事アンケートを通して把握し、献立に反映されています。金曜から日曜は、厨房から食材提供を受けて各ユニットで職員が調理しており、またこのうち一日は各ユニットで独自のメニューを考えて、食材の買物にも子どもが同行することがあります。このように、食育にも配慮した適切な食事提供がなされていることは高く評価されます。ただ、子どもの好き嫌いに対する対応が寛容で、子どもが自由に捕食に流れることもあるようで、これは本評価項目とは別ながら、生活習慣の習得や健康管理の面で課題を残しています。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	☐ 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	☐
	☐ 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	☐
	☐ 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	☐
	☐ 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	☐
	☐ 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	☐
	☐ 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	☐

【コメント】

三光塾では、生活支援の中で子どもの成長に合わせ個別に衣料が提供されています。子どもの年齢に応じて設定された予算の範囲で子どもの好みに配慮した衣類が選択され、それぞれの個性が表出されています。小さな子どもも買い物に同行したり、中高生には自分で購入する経験もさせています。衣服の洗濯や管理は、職員がお世話をすることに徹しているため、子どもたちに生活習慣を習得させることが遅れがちです。次項目の居室内の整理整頓とあわせ、こうした生活習慣の習得も大切ですので、適切な支援の工夫が求められます。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	☐ 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	☐
	☐ 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	☐
	☐ 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	☐
	☐ 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	☐
	☐ 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	☐
	☐ 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	☐
	☐ 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	☐

【コメント】

三光塾では、「境界線を意識した生活づくり」をモットーに、鍵のかかる個室には子ども同士でも勝手に入らない約束があり、私有の日用品を自己管理できる環境を保障しています。共用スペースや設備は月に1回安全点検が実施され、安全、安心、健康的な居住空間が提供されています。なかには片付けが得意な子どももいますが、職員がうまく誘導しています。破損部分の補修が迅速に行えていないと、厳しく自己評価していますが、評価調査の場面観察では、子どもの情操教育上の不具合はなく、共用スペースはよく整美されています。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	☐ 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	☐
	☐ 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	☐
	☐ 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	☐
	☐ 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	☐

【コメント】

子どもの健康については、嘱託医（小児科）による定期的な健康診断を実施して管理しています。その他、多種多様な医療機関との連携体制もあります。職員は、日常の服薬管理も安全に配慮して行うとともに、研修会では感染症マニュアル、病気や怪我への対応マニュアル等を取り上げて、医療的知見の共有が図られています。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	☐ 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	☐
	☐ 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	☐
	☐ 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	☐
	☐ 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	☐

【コメント】

三光塾では、縦割りのユニット構成のため、同年齢の子どもを対象とする集団的性教育は馴染まず、カリキュラムといったものではありませんが、担当職員が個々に性に関する正しい知識や関心を持てるよう取り組んでいます。組織としても、性教育に関する職員の資質向上に力を入れており、三光塾版「職員の皆さんのための性教育ガイド」を作成し、また性教育委員会の職員が外部研修から持ち帰った知識・技術を共有する研修も実施しています。子どもたちには必要な絵本や資料を提供するとともに、例えば職員が子どもと一緒に入浴する機会をつくって、自然な形で子どもの疑問や不安に答えています。5つのユニットのうち、のぞみの家は男女混合のユニットとなっており、現在はまだ年少の子どもたちですが、今後の成長に合わせた支援のあり方が課題となっています。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	☐ 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	☐
	☐ 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	☐
	☐ 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	☐
	☐ くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	☐

【コメント】

子どもに不適応な行動が見られた場合、その表面的な行動だけに目を向けるのではなく、その生育歴や施設が行ってきた支援をふりかえり、関係機関とも連携してカンファレンスを実施して、行動の背景にあるものに目を向けています。その実効性を高めるために、日々の養育支援の記録を綿密に記述し、これを朝礼や会議で共有しながらスーパーバイズを反復実施して、職員の支援力を高めています。子どもには経過措置としてのクールダウンや、スポーツ等での発散の機会を設けるほか、ふりかえりを子どもと共に行うので、子ども自身にも力が養われています。小舎制となって、子どもと職員の距離が近くなったことも相まって、子ども間のトラブルは著しく減少しています。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	☐ 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	☐
	☐ 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	☐
	☐ 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	☐
	☐ 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	☐
	☐ 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	☐

【コメント】

三光塾では「権利ノート」「三光塾で大切にしている事」を活用し、また毎月1回の安全点検や「聞かせてアンケート」による子どもの聴き取り調査から事実の有無確認を行うなどにより、子ども間の暴力、いじめ、差別などの早期発見と予防、適切な介入に取り組んでいます。年少児に暴力等をしてしまう子どもについては、刺激のない別室を用意して個別の支援が行われています。暴力等があった場合は直ちにカンファレンスを開き、対応にあたっていますが、行為の表面性だけを見て、加害者を加害者と扱うのではなく、その子どもが抱える背景や心因にもしっかり目を向けています。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	☐ 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	☐ 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	☐ 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	☐ 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	☐ 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	☐ 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

三光塾では、心理担当職員を2名配置して、職員会議等にも参加して個別の課題に対するコンサルテーションを行っています。子どもに施した心理療法の内容は記録され、自立支援計画や心理療法プログラムに反映されています。職員に対しては、トラウマインフォームドケアやアタッチメントなど、施設のニーズにあった研修やスーパーバイスを行うとともに、職員自身のメンタルケアも欠かせないとして、これには外部から第三者的な心理士の対応を図っています。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	☐ 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	☐ 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	☐ 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	☐ 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	☐ 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

完全個室の下で、子どもたちは落ち着いて学習できる環境があり、加えて食堂で宿題に取り組み、職員が付き添ったり高学齢児が助言する関係性もあります。そして施設としては希望者に対して施設内のあらゆる場所を提供する工夫がなされています。さらに、小学生にはボランティアの活用を図り、中学生以上には学習塾に通わせる取り組みもあります。障害のある子どもは現在8名と多く、通級・支援級への在籍や、支援学校への通学をさせています。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	☐ 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	☐
	☐ 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	☐
	☐ 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	☐
	☐ 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	☐
	☐ 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	☐
	☐ 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	☐
	☐ 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	☐

【コメント】

三光塾では、一人ひとりの子どもに担当職員が寄り添い、日々の暮らしの中で子どもの意向を把握した上で、進路選択に資する情報提供と助言に努めています。子どもたちも大学進学や資格取得を目指す者が増え、奨学金制度の活用や関係機関との連携も図っています。学校を中退したり、不登校となるなどのケースでの措置継続はもちろん、進学した子どもの生活の安定を図るために、措置延長や社会的養護自立支援事業にも取り組んでいます。三光塾が、以上のような取組のノウハウをマニュアルとして文書化しようとしていることは高く評価されます。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	☐ 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	☐
	☐ 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	☐
	☐ 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	☐
	☐ 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	☐
	☐ アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	☐

【コメント】

三光塾では、社会経験の拡大に向けて、アルバイトを認め資格取得を奨励しています。アルバイトでは社会のルールを守ることや責任を果たすことの大切さを学ぶとともに、金銭感覚の習得を期待しています。また資格取得では自立に向けた自信と自覚の芽生えを促しています。もちろん、失敗やつまづきもありますが、成功体験に限らず、失敗体験も大切な成長の糧と考えています。児童養護施設として、子どもに人のかかわりの力を養い、人から愛される存在になってほしいという基本的な考えを徹底しています。従って直接的に就労に結び付けるような職場実習先の開拓などは行わず、自立支援計画に基づいた自立支援を徹底しています。今後は、より具体性をもった自立支援の確立のために、関係機関や企業との連携も見据えた取組が期待されます。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	☐ 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	☐ 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	☐ 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	☐ 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	☐ 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

三光塾では、家庭支援専門相談員（FSW）を2名配置しています。また、一人ひとりの子どもに配置する担当職員とともに、入所児童の家族関係調整についてケースアセスメント、進行管理を綿密に行って、家族再統合の計画を立てて、保護者との面接や、子どもとの面会交流場面への介入等を行っています。一時帰宅後の子どもの変容にも注意して、必要な対応を行っていますが、家族の再統合（信頼関係づくり）は一進一退の様相であり、家族支援の重要性を認識しています。子どもの生活情報については三光塾だよりによって、保護者に随時知らされています。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	☐ 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	☐ 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	☐ 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

三光塾では「自立支援計画策定用年間アセスメントシート」等を策定して、全ケースのアセスメントを丁寧に行い、抽出された支援課題について、具体的な支援計画（自立支援計画）を立てて、実践しています。家族療法事業も実施して、家庭復帰に限定しない親子関係の回復支援や、家庭復帰後の虐待の再発防止にも取り組んでいます。児童相談者や市町村とも連携して、積極的なカンファレンスにも努めています。施設には親子訓練室や地域交流室がありますので、今後はその利用の活性化を期待します。